

結城農業 かわら版

第107号
1月28日

発行

結城地域農業
改良普及センター
TEL:0296-48-0184
FAX:0296-48-2682



HPへアクセス↑

茨城県農業経営士協会 県西支部夫人研修会

参加者26名(農業経営士10名、経営士の奥様16名)で1月16日(土)に2泊3日の夫人研修会を沖縄で開催しました。これは農業経営士の奥様達を中心の研修会で、宿泊を伴うものは昨年の北海道に続き、今回が2回目です。



↑参加者26名



→経営士の奥様16名

研修では八重山諸島の石垣島、西表島、由布島、小浜島、竹富島の5つの島を巡りました。沖縄民謡や牛車などの独特な文化に触れたほか、サトウキビや石垣牛といった沖縄ならではの農産物を見学し、実り多い内容となりました。



←由布島・西表島間海を渡る水牛車

さらに、今回の研修では筑西・坂東・結城地区の皆さんが集まり、離れた地域の方々の交流も図ることができました。



結城地域農村青少年プロジェクト 実績発表会開催

1月22日(火)ビアンジュYUKIYAで平成30年度結城地域農村青少年プロジェクト発表会が開催されました。

実績発表会開催



「イチゴ高設栽培の自家経営への導入試算」
鬼怒4Hクラブ
結束 龍輝氏



「独立就農を目指して」
農業学園受講生
宮崎 誠氏



クラブ活動紹介
右 結城農業青少年クラブ 渡邊 竜一氏
左 鬼怒4Hクラブ 瀬崎 成俊氏

結城農村青少年クラブの菅井渉氏をはじめ3名の経営改善取組みを主とした発表は素晴らしく、地域を担う若い農業者の力強さ・頼もしさを感じました。

特に、菅井氏が「夏作の品目大転換」と題して発表した、アスターから初夏ネギ栽培への品目転換の英断は、機械化により作業効率を高め、従業員の負担を軽減し、働き方改革にも繋がる、経営感覚に優れた戦略的な内容のプロジェクトでした。

菅井氏は、1月29日に行われる「茨城県農業青年プロジェクト発表会」へ地域代表として参加します。



↑講演を行う
鈴木農場 鈴木 正己氏

発表後には、鈴木農場の鈴木正己氏から「実践者から見たGAPの意義」について講演をして頂きました。

鈴木氏は、前職でISOの認証に携わり、当時の経験をふまえ、作業工程管理の大切さを意識しGAP認証を取得しました。

実際にGAPをはじめたことにより、保管方法が変わり整理整頓を行うようになったそうです。日々の積み重ねが功を奏し、昨年度のクレーム件数はゼロだったそうです。
安心安全なものを提供するにはどうするか、鈴木氏の熱い講演を若い農業者は、熱心に聞いていました。

新規就農者

インタビュー

常総市の新規就農者

松村 欣幸氏

茨城県で農業を始めた理由
茨城県は農業が盛んなため、始めるならここだと思っただけから。

今心にかけている事

技術向上のために昨年のやり方を見直し、地域の先輩農業者に聞いたりインターネットで調べ、新しい技術を取り入れている農業の魅力は何ですか

品目設定・生産・収穫・出荷の全行程をすべて自分で決め、一環で行うことができる事。自分のやりたいうことを形に出来る。これからの目標
販路拡大・新品目栽培への挑戦を考えている。



↑松村氏

第6回農業学園開催

GAPの理解を深める

12月3日(月)結城普及センターはじめ県西3普及センターは、井関農機株式会社夢ある農業総合研究所において、結城地域アグリ講座「農業機械及びGAP研修」を開催しました。

講義ではGAPについて、井関農機株式会社の担当者から基本的な知識と取組み事例を学びました。GAP「Good Agricultural Practice」は農業生産工程管理手法と直訳され、近年、食と人の安心安全を守る観点から普及が進んでいます。



↑GAP研修中の参加者



↑農業機械の展示ブース

参加者は、取組むことと認証を取得することの違いを意識して質問していました。

また、農業機械の展示ブースでは、先端技術について研修しました。特に、田植機に搭載されたセンサーが、土壌肥沃度を田植え時に実測し、施肥量を自動制御する独自の「可変施肥技術」に注目が集まっています。

講座全体を通して参加者からは、「GAPは良い農業のやり方であり、農業全般に関わると分かった。管理や記録の重要性を実感した。」などの感想が多く聞かれました。

育苗準備について

毎年、育苗に失敗する大きな原因に「浸種不足・催芽ムラ」があげられます。育苗計画をたてて十分な「浸種催芽」を行いましょ。

○浸種は水温10度〜15度で、積算温度100度〜120度（水温10度の場合10日〜12日）を目安に種がアメ色になるまで行いましょう。催芽ではハト胸状態(図1)になったことを必ず確認してください。



←図1 はと胸状態の種

イネ縞葉枯病対策

いまだ本病を媒介するヒメトビウシカウイルス保毒率は高く、発病株率も高止まり状態です(表1)。今できる対策を地域ぐるみで徹底し、一刻も早く本病を終息撲滅させましょ。

○ヒメトビウシカは水田畦畔や周辺の土手等のイネ科雑草で越冬するので、除草を徹底ましょ。



★新規クラブ員募集中!★

同世代の農業者との交流会を開いて情報交換をするほか、自分たちでテーマを見つけて研修を行ったり、旅行に行くこともあります。

普及センターが開催している講座や県外などへの研修会に参加することもできます。

連絡先 茨城県県西農林事務所
結城地域農業改良普及センター (担当 中村、森)

住所 茨城県結城郡八千代町大字若1517-5
TEL 0296-48-0184 FAX 0296-48-2682

↑カボチャ栽培